

2



内容を見て
みよう!

新発田市水道事業の概要

- 2.1. 新発田市について 06
- 2.2. 水道事業のあゆみ 07

2 新発田市水道事業の概要



2.1. 新発田市について

新発田市は越後平野（新潟平野）の北部に位置し、県都新潟市に隣接する新潟県北部の都市です。面積 533.11 平方キロメートル（令和 5 年 4 月 1 日現在）、人口 9 万 3,563 人（令和 5 年 3 月末現在）です。

北西には白砂青松と形容される美しい海岸が広がり、南東の山岳地帯には豊かな自然景観に恵まれた磐梯朝日国立公園、胎内二王子県立自然公園があります。また、かつて東洋一といわれた堤桜を有する加治川の水系によって潤う肥沃な土地が広がっており、県内有数の良質米コシヒカリの産地でもあります。

初代藩主・溝口秀勝が加賀大聖寺から入封したときは 6 万石が給され、江戸時代末期には 10 万石の城下町として栄えた新発田。現在も国の重要文化財となっている新発田城や足軽長屋など城下町新発田の文化遺産をまちの随所にとどめています。そして、平成 16 年には城下町新発田の新しいシンボルとして、また、未来を担う子どもたちへの贈り物として、新発田城三階櫓・辰巳櫓が復元されました。

昭和 22 年に市制を施行してから、昭和 30 年に五十公野、米倉、赤谷、松浦、菅谷、川東の 6 村と、31 年に加治川村の一部、34 年に佐々木村と合併しました。平成に入り 15 年 7 月 7 日に豊浦町と、そして 17 年 5 月 1 日には紫雲寺町・加治川村と合併しました。

城下町の歴史と文化、全国的にも有名な月岡温泉、山から海までの豊かな自然など、たくさんの魅力を持つ新発田市は、「住みよいまち日本一 健康田園文化都市・しばた」を目指し、これからも発展していきます。



2.2. 水道事業のあゆみ

現在、新発田市の市街地となっている地域は、昔は湿地帯であったため、地下水の水質は良くありませんでした。そのため飲用に川水を使う家庭も多く、伝染病の発生が絶えなかったことが史書に記されています。

そして、当時の新発田町が良質な飲料水と生活水の確保を求める地域住民の声に応える形で水道事業を開始したのは、昭和3年のことでした。創業当時の計画給水人口 27,000 人、計画一日最大給水量 3,375 m³でした。

その後、5期にわたって給水区域拡張事業を実施し、本市の水道未普及地域を解消しました。そして平成13年度から始めた市内の中山間地域への給水区域拡大に向けた第5期拡張事業が完了した平成24年度末には計画給水人口が101,600人、計画一日最大給水量は新潟東港地域水道用水供給企業団からの受水権水量を含めて60,250 m³にまで事業規模を拡大しました。

平成16年度からは小舟渡配水場、平成20年度からは紫雲寺配水場を通じて新潟東港地域水道用水供給企業団から水道水の受け入れを開始し、より安定的な給水が可能になりました。

平成28年度には、これまで組合営で経営をしてきた大槻地区簡易水道が水源である井戸が枯渇し上水道事業と統合、また、平成29年度には、中山間地に位置する5地区の市営簡易水道（中々山・滝谷新田・上赤谷・板山・山内）を上水道事業に統合したことにより、計画給水人口104,560人、計画一日最大給水量61,730 m³となり、現在に至っています。

水道拡張事業の推移

	事業期間	計画給水人口(人)	計画一日最大給水量(m ³ /日)	計画一日取水量(m ³ /日)	総事業費(千円)
第1期拡張事業	昭和25年度 ～昭和34年度	38,000	9,880	9,880	108,688
第2期拡張事業	昭和38年度 ～昭和43年度	70,000	24,500	24,500	542,922
第3期拡張事業	昭和42年度 ～昭和54年度	85,000	43,400	45,400	2,660,509
第4期拡張事業	昭和55年度 ～平成8年度	89,500	55,300	57,300	5,758,658
第5期拡張事業他	平成13年度 ～平成24年度	101,600	60,250	62,250	4,569,000
大槻地区上水道整備事業	平成26年度 ～平成28年度	102,080	60,440	59,150	286,000
簡易水道統合整備事業	平成27年度 ～令和元年度	104,560	61,730	60,603	350,053



新発田市水道局の主な出来事

年 月	主な出来事	年 月	主な出来事
大正15年3月	創設事業認可 (給水区域：新発田町全域及び五十公野村杉の越) 計画給水人口：27,000人 一日最大給水量：3,375m ³	昭和63年10月	水道庁舎建設工事竣工(着工：昭和63年5月)
大正15年7月	江口地内に起工式挙行	昭和63年11月	創設60周年記念式典並びに水道庁舎落成集管理中管理システム竣工記念式典を挙行
昭和2年12月	通水開始	昭和63年12月	給水区域拡張工事竣工(菅谷、石喜、上岡田地区)
昭和3年3月	工事竣工	平成元年3月	集中管理システム設置工事竣工(残工事共)
昭和3年4月	給水開始	平成元年12月	給水区域拡張工事竣工(下高岡、下中江地区)
昭和3年5月	下内竹配水池前広場で竣工式挙行	平成2年1月	小舟渡配水場築造工事竣工(着工：平成元年10月) 新潟東港地域水道用水供給企業団より受水
昭和13年3月	軍用水道水利権移譲	平成2年3月	第4期拡張事業内容変更 計画給水人口：89,500人
昭和16年5月	水源補強工事着手	平成2年11月	姫田川水管橋築造工事竣工(着工：平成2年2月)
昭和19年9月	水源補強工事竣工	平成3年2月	給水区域拡張工事竣工(南橋、東堤田、下楠川、下三光地区)
昭和22年1月	市制施行	平成3年3月	水道庁舎敷整備工事竣工(着工：平成2年10月)
昭和25年11月	第1期拡張事業認可	平成3年4月	老朽管更新事業開始
昭和26年12月	配水池拡張工事竣工(着工：昭和25年11月)	平成3年10月	給水区域拡張工事竣工(上中江、下中江、北中江、中倉、麓地区)
昭和29年11月	第2水源新設工事竣工(着工：昭和27年11月)	平成4年12月	三光川水管橋築造工事竣工(着工：平成2年4月) 給水区域拡張工事竣工(蔵光地区)
昭和30年2月	第1期拡張事業変更認可 計画給水人口：38,000人 一日最大給水量：9,880m ³	平成5年12月	給水区域拡張工事竣工(小国谷、蔵光地区)
昭和30年5月	第1号浅井戸築造工事竣工(着工：昭和29年9月)	平成6年6月	蔵光橋水管橋築造工事竣工(着工：平成5年7月)
昭和33年7月	第2号浅井戸築造工事竣工(着工：昭和32年9月)	平成8年3月	給水区域拡張工事竣工(東宮内、中妻の一部、×切)
昭和34年3月	第1期拡張事業完了 給水区域拡張事業認可(拡張区域：五十公野村外3集落)	平成8年6月	坂井川水管橋築造工事竣工(着工：平成7年7月)
昭和35年3月	給水区域拡張工事竣工(着工：昭和34年4月) 給水区域拡張事業認可(拡張区域：日渡外5集落)	平成9年7月	深井戸第1号掘直し完了
昭和36年3月	給水区域拡張工事竣工(着工：昭和35年4月)	平成10年8月	創設70周年記念式典を挙行(俳優 三田村邦彦氏による講演)
昭和36年4月	地方公営企業法適用	平成13年3月	第5期拡張事業認可 計画給水人口：91,700人 (拡張区域 新発田市菅谷、川東地区19集落) 一日最大給水量：55,300m ³ 深井戸第2号掘直し完了
昭和37年12月	第2期拡張事業認可(拡張区域：米倉外26集落豊浦村20集落) 計画給水人口：70,000人 一日最大給水量：24,500m ³	平成14年3月	小舟渡配水場築造工事竣工(着工：平成13年9月)
昭和38年8月	第3号浅井戸築造工事竣工	平成15年3月	旧新発田町上水道敷設関係資料(48点)が新潟県指定有形文化財に指定
昭和39年9月	米倉集落外給水区域拡張工事着手	平成15年7月	新発田市と豊浦町の合併(7月7日) 新発田市の一部(豊浦地区)の上水道事業に関する事務を水原町外3ヶ 町村水道企業団(平成16年4月 阿賀野市へ)に委託
昭和39年11月	内の倉ダムより1日13,000m ³ の取水に関する覚書交換	平成15年8月	給水区域拡張工事竣工(上羽津、下羽津、本間新田、虎丸地区)
昭和40年3月	第4号浅井戸築造工事竣工(着工：昭和39年12月)	平成16年3月	小舟渡配水場整備事業完了(着工：平成13年9月) 荒川地区整備事業完了(着工：平成14年10月) (新荒川、田家地区)
昭和41年5月	配水池築造工事竣工(着工：昭和40年10月)	平成17年5月	新発田市・紫雲寺町・加治川村の合併(5月1日) 合併統合による事業変更 計画給水人口：101,600人 一日最大給水量：60,250m ³
昭和42年3月	第3期拡張事業認可 計画給水人口：85,000人 一日最大給水量：34,000m ³	平成17年6月	給水区域拡張工事竣工(上三光、下三光の一部、上楠川)
昭和42年12月	内の倉ダムより13,000m ³ の取水について北陸農政局と新発田市長間で暫定協 定締結	平成18年4月	紫雲寺地区送水管敷設事業開始
昭和43年3月	給水区域拡張事業認可 (拡張区域：西名柄外5集落42年8月水害による集落移転拡張工事) 第2期拡張事業完了	平成18年5月	給水区域拡張工事竣工(下石川、中川、滝、繁山、小出の一部)
昭和43年5月	第2水源池廃止 深井戸築造工事竣工(着工：昭和42年12月)	平成19年5月	給水区域拡張工事竣工(小出(五斗蒔)、上寺内)
昭和43年8月	農林省と建設省間で内の倉川総合開発事業 (内の倉ダム)についてアロケーション協議成立	平成20年3月	紫雲寺地区送水管敷設事業完了(着工：平成18年8月)
昭和43年9月	内の倉ダム着工	平成20年4月	紫雲寺地区送水開始 給水区域拡張工事竣工(下寺内、横山、中川地区の一部)
昭和44年3月	給水量の変更認可 一日最大給水量：43,000m ³	平成21年3月	給水区域拡張工事竣工(上石川、下石川の一部)
昭和44年4月	内の倉ダムより1日30,000m ³ の取水について北陸農政局長、新潟県知事及び 新発田市長間で協定締結 (昭和42年12月付で締結された協定は廃止)	平成22年3月	給水区域拡張工事竣工(下中山の一部)
昭和45年10月	浄水方法の変更認可 (緩速ろ過から急速ろ過方式に変更)	平成23年3月	給水区域拡張工事竣工(下中山の一部、満足、上荒沢、熊出)
昭和47年7月	浄水場管理棟竣工(着工：昭和46年11月)	平成25年3月	給水区域拡張工事竣工(田貝、本間新田の一部) 第5期拡張事業完了
昭和48年3月	給水区域拡張事業認可(拡張区域：新発田市11集落加治川村13集落)	平成27年3月	給水区域拡張事業変更認可(大槻地区) 計画給水人口：102,080人 一日最大給水量：60,440 m ³
昭和48年7月	新潟東港地域水道用水供給企業団に参加	平成28年4月	水道料金等徴収業務委託を開始
昭和49年2月	高速沈殿池、急速ろ過池築造工事竣工(着工：昭和45年10月)	平成29年3月	大槻地区上水道整備事業完了 内竹配水場第1配水池耐震化工事(第1期)竣工
昭和49年3月	内の倉ダム竣工	平成29年4月	市営簡易水道(中々山、滝谷新田、上赤谷、板山及び山内)地区を上水道に経営統合 計画給水人口：104,560人 一日最大給水量：61,730 m ³
昭和49年7月	加治川水管橋築造工事竣工(着工：昭和48年12月)	平成30年3月	内竹配水場第1配水池耐震化工事(第2期)竣工 浄水方法変更事業認可(江口浄水場活性炭処理)
昭和50年10月	配水池及び管理棟工事竣工(着工：昭和48年12月)	平成30年8月	創設90周年記念シンポジウムを実施 内竹配水場第1ポンプ室耐震化工事竣工
昭和55年3月	汚泥処理施設工事竣工(着工：昭和54年10月) 第3期拡張事業完了	平成30年12月	江口浄水場活性炭注入設備竣工
昭和55年7月	第4期拡張事業認可 計画給水人口：91,700人 一日最大給水量：55,300m ³	令和元年12月	内竹配水場第2配水池耐震化工事竣工
昭和56年3月	給水区域拡張工事竣工(岡田地区)	令和3年3月	緊急時用連絡管(阿賀野市側)竣工
昭和57年5月	給水区域拡張工事竣工(上中山、敦賀地区)	令和3年12月	浦地区上水道整備事業完了 緊急時用連絡管(胎内市側)竣工
昭和62年2月	集中管理システム設置工事着手	令和4年12月	江口浄水場浄水池耐震化工事竣工
昭和62年3月	給水区域拡張工事竣工(五十公野地区)	令和5年2月	紫雲寺配水場配水池耐震化工事竣工
昭和62年7月	給水区域拡張工事竣工(加治川村地区) 水道庁舎建設用地買収		
昭和62年10月	加治川高新水管橋築造工事竣工(着工：昭和61年8月)		
昭和63年3月	水道庁舎建設用地造成工事竣工		

大正時代に水道創設計画ができたんだ!



平成になるとたくさんの方に水道が使えるようになったんだ。



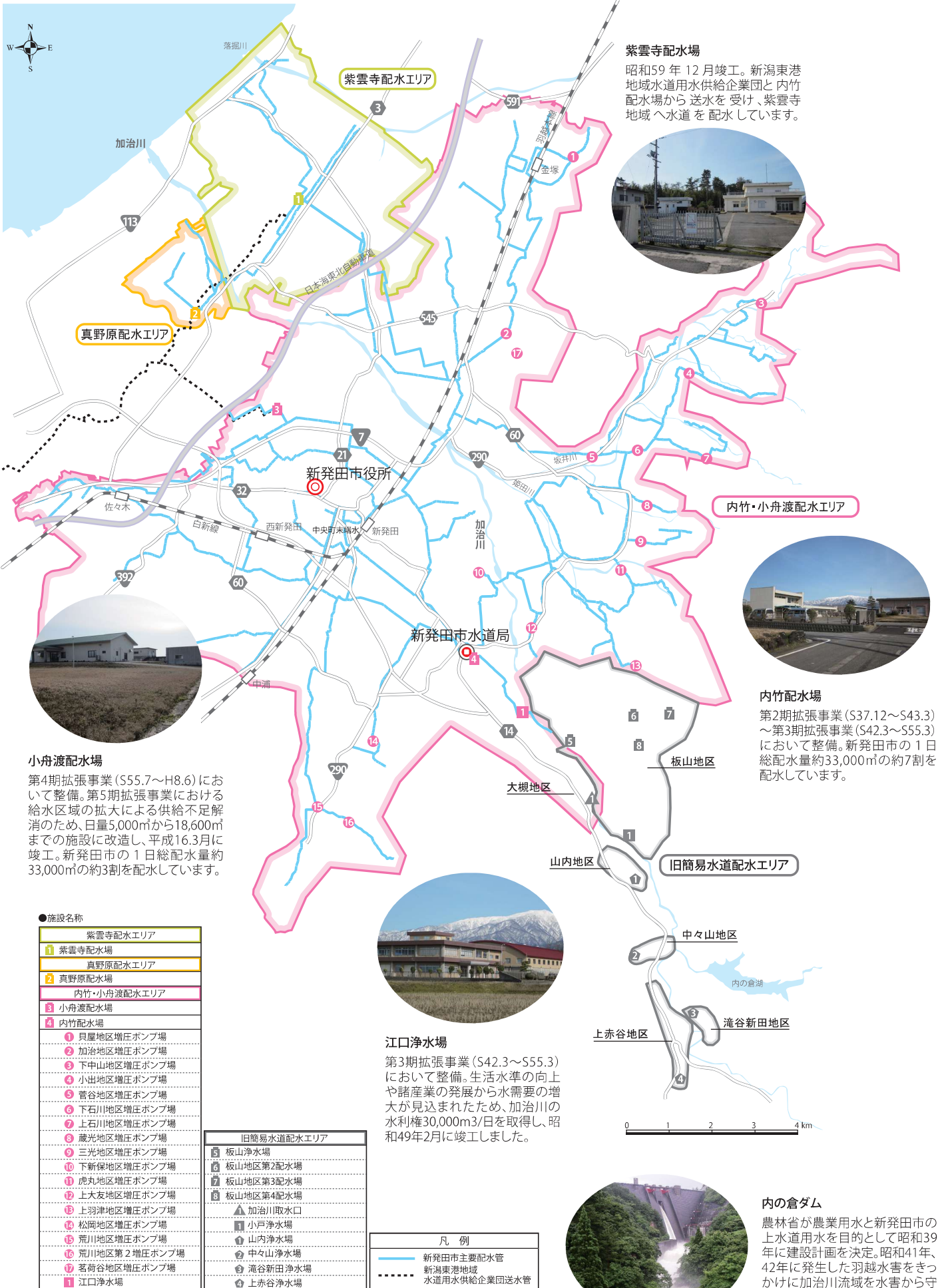
平成10年には創設70周年になったんだ!



ダムを造って市民の水道を確保したんだね。



新発田市水道事業の概要



紫雲寺配水場
 昭和59年12月竣工。新潟東港地域水道用水供給企業団と内竹配水場から送水を受け、紫雲寺地域へ水道を配水しています。



内竹・小舟渡配水エリア



内竹配水場
 第2期拡張事業(S37.12~S43.3)~第3期拡張事業(S42.3~S55.3)において整備。新発田市の1日総配水量約33,000m³の約7割を配水しています。

小舟渡配水場
 第4期拡張事業(S55.7~H8.6)において整備。第5期拡張事業における給水区域の拡大による供給不足解消のため、日量5,000m³から18,600m³までの施設に改造し、平成16.3月に竣工。新発田市の1日総配水量約33,000m³の約3割を配水しています。

- 施設名称
- | |
|-----------------|
| 紫雲寺配水エリア |
| 1 紫雲寺配水場 |
| 真野原配水エリア |
| 2 真野原配水場 |
| 内竹・小舟渡配水エリア |
| 3 小舟渡配水場 |
| 4 内竹配水場 |
| 1 貝屋地区増圧ポンプ場 |
| 2 加治地区増圧ポンプ場 |
| 3 下中山地区増圧ポンプ場 |
| 4 小出地区増圧ポンプ場 |
| 5 菅谷地区増圧ポンプ場 |
| 6 下石川地区増圧ポンプ場 |
| 7 上石川地区増圧ポンプ場 |
| 8 蔵光地区増圧ポンプ場 |
| 9 三光地区増圧ポンプ場 |
| 10 下新保地区増圧ポンプ場 |
| 11 鹿丸地区増圧ポンプ場 |
| 12 上大友地区増圧ポンプ場 |
| 13 上羽津地区増圧ポンプ場 |
| 14 松岡地区増圧ポンプ場 |
| 15 荒川地区増圧ポンプ場 |
| 16 荒川地区第2増圧ポンプ場 |
| 17 茗荷谷地区増圧ポンプ場 |
| 18 江口浄水場 |

- | |
|-------------|
| 旧簡易水道配水エリア |
| 5 板山浄水場 |
| 6 板山地区第2配水場 |
| 7 板山地区第3配水場 |
| 8 板山地区第4配水場 |
| ▲ 加治川取水口 |
| ■ 小戸浄水場 |
| ▲ 山内浄水場 |
| ▲ 中々山浄水場 |
| ▲ 滝谷新田浄水場 |
| ▲ 上赤谷浄水場 |

- 凡例
- 新発田市主要配水管
 - - - 新潟東港地域水道用水供給企業団送水管

江口浄水場
 第3期拡張事業(S42.3~S55.3)において整備。生活水準の向上や諸産業の発展から水需要の増大が見込まれたため、加治川の水利権30,000m³/日を取得し、昭和49年2月に竣工しました。



旧簡易水道配水エリア

板山地区
 大槻地区
 山内地区
 中々山地区
 内倉湖
 滝谷新田地区
 上赤谷地区



内の倉ダム
 農林省が農業用水と新発田市の上水道用水を目的として昭和39年に建設計画を決定。昭和41年、42年に発生した羽越水害をきっかけに加治川流域を水害から守る機能も加えたダムとして建設し昭和49年3月に竣工しました。

新発田市水道施設位置図

新発田市水道事業の概要

